

あわしがき二籠、なすび一こ給ひ候ひ了んぬ。

入道殿の御所勞の事、唐土に黄帝・扁鵲と申せしくすしあり、天竺に持水・耆婆と申せしくすしあり。これらはその世のたから、末代のくすしの師なり。仏と申せし人は、これにはにるべくもなきいみじきくすしなり。この仏不死の薬をとかせ給へり。今の妙法蓮華經の五字是なり。しかもこの五字をば「閻浮提人、病之良薬」とこそとかれて候へ。

入道殿は閻浮提の内日本国の人なり。しかも身に病をうけられて候。「病之良薬」の經文顯然なり。其上蓮華經は第一の薬なり。はるり王と申せし悪王、仏のしたしき女人五百余人を殺して候ひしに、仏、阿難を雪山につかはして青蓮華をとりよせて身にふれさせ給ひしかば、よみがへりて七日ありて忉利天に生まれにき。蓮華と申す花はかゝるいみじき徳ある花にて候へば、仏、妙法にたとへ給へり。又人の死ぬる事はやまひにはよらず。当時のゆき・つしまのものどもは病なけれども、みなみなむこ人に一時にうちころされぬ。病あれば死ぬべしという事不定なり。又このやまひは仏の御はからひか。そのゆへは浄名經・涅槃經には病ある人、仏になるべきよしとかれて候。病によりて道心はおこり候か。又一切の病の中には五逆罪と一闍提と謗法をこそ、おもき病とは仏はいたませ給へ。今の日本国の人は一人もなく極大重病あり、所謂大謗法の重病なり。今の禅宗・念仏宗・律宗・真言師なり。これらはあまりに病おもきゆへに、我が身にもおぼへず人もしらぬ病なり。この病のこうずるゆへに、四海のつわものたゞいま来たりなば、王臣万民みなしづみなん。これをいきてみ候はんまなこそあだあだしく候へ。

入道殿は今生にはいたく法華經を御信用ありとはみ候はねども、過去の宿習のゆへ、かのもよをしによりてこのなが病にしづみ、日々夜々に道心ひまなし。今生につくりをかせ給ひし小罪はずでにきへ候ひぬらん。謗法の大悪は又法華經に歸しぬるゆへにきへさせ給ふべし。たゞいまに靈山にまいらせ給ひなば、日いでて十方をみるがごとくうれしく、とくしにぬるものかなと、うちよろこび給ひ候はんずらめ。中有の道にいかなる事もいできたり候はゞ、日蓮が弟子となのらせ給へ。わずかの日本国なれども、さがみ殿のうちのものと申すをば、さうなくおそるゝ事候。

日蓮は日本第一のふたうの法師、たゞし法華經を信じ候事は、一閻浮提第一の聖人なり。其の名は十方の浄土にきこえぬ。定めて天地もしりぬらん。日蓮が弟子となのらせ給はゞ、いかなる悪鬼等なりとも、よもしらぬよしは申さじとおぼすべし。さては度々の御心ざし申すばかりなし。恐々謹言。

八月十六日

日蓮花押

妙心尼御前御返事

さるは木をたのむ、魚は水をたのむ、女人はおとこをたのむ、わかれのをしきゆへにかみをそり、そでをすみにそめぬ。いかでか十方の仏もあはれませ給はざるべき、法華經もすてさせ給ふべきとたのませ給へ、たのませ給へ。